



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2022年2月6日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



迫る

日が沈んだ川の水面に、優しく青色に光る幾つものオブジェを浮かべて、星空のような空間をつくり出すイベントが広がっ

追悼の思いを託す「いのり星」

2月6日(日)＝1、3面

ています。オブジェは「いのり星」。このイベントを「天の川プロジェクト」と名付けて、各地で取り組んでいるのは、大阪の企画制作会社代表の原野芳弘さん。当初は、現代版の灯籠（とうろう）流しをイメージしたイベントでしたが、東日本大震災の被災地や、自然災害で大

きな被害が出た地域の追悼行事などで受け入れられています。原野さんは言います。「いのり星で人々や地域をつなぎ、照らしたい」と。そう考えるようになったのは阪神大震災がきっかけでした。原野さんと「いのり星」の歩みに迫ります。

特集 ワイド

長妻昭さんが斬る政府のコロナ対応

2月8日(火)＝夕刊特集ワイド



新型コロナウイルス感染拡大の「第6波」の到来は予期されていましたが、ワクチンの追加接種が進まず、検査キット不足にも悲鳴の声が上がっています。かつて「消えた年金」問題で政府を厳しく追及して「ミスター年金」と

呼ばれた元厚生労働相で立憲民主党の長妻昭衆院議員(61)＝写真＝は、「準備を怠ってきたツケが回ったのです」と厳しく批判しています。厚労行政に精通する長妻さんが岸田文雄政権のコロナ対策について語りました。

所属するマウント・サイナイ・ベス・イスラエル病院で、感染者の治療に臨む原田洗医師。奥は感染者のいる集中治療室（ICU）＝本人提供



追加接種でも感染したNY医師のインタビュー

2月9日(水)＝くらしナビ面

170カ国以上に感染が広がった新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」。米国では年明けに新規感染者が100万人を上回るなど、日本より1カ月早く猛威に襲われました。ニューヨーク中心部にあ

る総合病院「マウント・サイナイ・ベス・イスラエル病院」で、感染者らの治療に当たった内科医の原田洗医師も、3回のワクチン接種を受けながら感染しました。治療の最前線に立つ医師の目を通して、日本のコロナ対策の課題などに迫ります。

論点

「あさま山荘」事件から50年

2月11日(金)＝オピニオン面

共産主義革命を掲げた「連合赤軍」のメンバーが起こした「あさま山荘」事件から50年になります。事件では、ライフル銃などで武装した若者5人が長野県軽井沢の保養所に立てこもり、銃撃戦で警官ら3人が死亡しました。メンバーら

は仲間をリンチで殺害する事件も起こしていました。凄惨（せいさん）な一連の事件が、その後の若者の政治離れのきっかけを作ったとの見方もあります。元メンバーや研究者に、社会への影響などについて聞きました。



事件の現場となった浅間山荘＝1972年2月28日撮影

新毎日

はQRから！
こちらもお楽しみを。詳しくはQRから！
（小野田香織）



竹橋の窓辺から

編集後記

